

# Soccer News Shiga

2017.10.20

発行 (公社)滋賀県サッカー協会

責任者

専務理事 前田 康一

〒524-0212 滋賀県守山市服部町2439番地

TEL:077-585-0982 / FAX:077-585-0983

e-mail shiga@oregano.ocn.ne.jp

URL http://www.shigafa.com

印刷:スペース工房

## おめでとう! 全国中学校サッカー大会ベスト8

### 第48回 全国中学校サッカー大会を終えて

大津市立仰木中学校サッカー部 監督 田中 裕也

この度、熊本で行われました第48回全国中学校サッカー大会に、近畿ブロック代表として出場いたしました。近畿大会では決勝で敗れ、準優勝となりましたが、2年連続4回目の出場を果たしました。素晴らしいピッチと灼熱の中行われた8月19日(土)の1回戦では関東ブロック代表小山市立小山第三中学校(栃木県)と対戦し、早い時間帯で2点を許したものの、前半で追いつき、後半ロスタイムによる得点で逆転勝利を果たしました。翌20日(日)の中国ブロック代表周南市立周陽中学校(山口県)との2回戦も同様、先制される展開の中、前半で追いつき、後半開始早々の逆転弾を守り抜き2-1で勝利を収めました。翌21日(月)仰木中として初めての舞台、準々決勝では、関東ブロック代表多摩大学目黒中学校(東京都)と対戦し、善戦しましたが相手のパワーなどに押され、0-4で敗れ、全国ベスト8という結果で、暑く長い夏を終えることとなりました。昨年の悔しさや経験など、様々なことを教訓や成長の糧とし、この1ヶ月の間、大津市の大会で4試合、県大会で4試合、近畿大会で4試合、全国大会で3試合と計15試合を戦い抜いた選手たちの表情からは、自信とたくましさを感じ取ることができました。部員たちは、全国ベスト4を目指し1年間頑張ってきたので、悔しい気持ちもあるでしょうが、初の準々決勝まで駒を進めることができた要因は、自分たちが培ってきた「みんなで考え、関わり、ボールをつないでゴールを目指すサッカー」が全国でも通用したという自信、勝たなければいけないというプレッシャーに押しつぶされることなくこの夏を闘いぬいた精神力、また、試合中どんな状況になっても平常心で試合に臨むことができたことだと思います。

大会を通して私が感じたことは、相手チームに隙を与えないこと、また逆に相手の隙は確実にものにする力や技術、チーム力が全国ベスト4以上に入るチームにはあったということです。その隙というのは、日頃の生活や練習で、無くしきれなかった甘さが生んでいる

ように思います。自分自身も深く反省しております。日頃の練習でどれだけ甘さを無くしていいか、そして日々のトレーニングの中で厳しいプレッシャーの状況や雰囲気をどれだけ作っていいかが、全国で準決勝のピッチに立つためには必要だと感じております。選手たちには、この貴重な経験に奢ることなく、次のステージや新チームで活かしてほしいです。また我々指導者もこの全国の舞台で感じた事を大切にして、多くの人に伝えるとともに、3年連続で全国の舞台に立てるように指導していきたいと思います。本当に選手たちには感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、保護者の皆様、滋賀県や近畿、そして大津市などたくさんの激励やご支援いただきました関係者の皆様には、心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



### 平成29年度 全国高等学校総合体育大会を終えて

近江高等学校サッカー部 監督 前田 高孝



平成29年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技に滋賀県代表として初出場し、7月30日の1回戦で熊本代表の東海大星翔高校と戦い、0-2という成績で終えることとなりました。

当日は、大雨でピッチ状態が悪く、グランダーのボールがすべて止まる状態でした。その中でも近江高校の選手は懸命に戦いましたが、相手の体格差を活かしたロングボールによる攻撃に苦戦しました。前半は、相手のセットプレーから決められ、0-1で折り返しました。後半は、近江高校がボールを保持して、相手コートでプレーする時間が長く、攻撃の機会が増えました。しかし、後半の中頃に前掛りになつたところで相手のカウンターを浴びて失点し、0-2となりました。その後も、選手交代も含め、攻撃的に出ましたが、相手のゴールを割ることができず、試合終了となりました。

近江高校サッカー部は昨年から強化が始まり、まだ1、2年生の若いチームです。「サッカーを通じた人間力の向上」をテーマに選手が主体的にオフザピッチ、オンザピッチで取り組んでいます。その取り組みが今回の全国大会出場に繋がったと考えています。今後の目標は全国優勝です。それに向けて選手達は、既に動き始めており、それはピッチ内だけでなく、ピッチ外でも感動を生める組織作りに着手しております。「滋賀の歴史を変える」から「日本、世界の歴史を変える」ということを合い言葉に今後も近江高校は歩みを止めることなく、突っ切つていきたいと思っています。

最後になりましたが、今回の出場にあたり、保護者の方々はじめ、関係者の皆様にはたくさんの激励とご尽力いただきましたこと、この場をお借りし御礼申し上げます。ありがとうございました。



### 第22回全日本女子ユース(U-15) サッカー選手権大会を終えて

ルネス学園甲賀レディースU-15 監督 鳥飼 健一

まず始めに、関係者の皆様には多くの激励とご尽力をいただきましたことに御礼申し上げます。

この度、滋賀県のU-15女子チームとして、初めて全国大会に出場しました。7月23日の1回戦で北信越代表の星稜PEL(石川県)と対戦し、結果は1-3での敗戦となりました。

前半は、相手のロングボールに対して対応できず、ペナルティエリア内で相手FWを倒した結果、PKからの先制点を許してしまいました。その後、前半終了間際にミドルシュートから同点としました。後半は、相手のロングボールに対してDFラインが押し上げられず、中盤でセカンドボールを奪われる回数が多くなり、押し込まれる場面が増え2失点と、残念な結果となってしまいました。

テクニク(ドリブル)の部分では、成果が現れたゲームでした。個での打開、ボール失わない技術などは、U-12年代から取り組んできている成果だと思います。しかし、課題としては、キックの質の部分を追求していかなければいけないと実感しました。日頃から正確にボールを蹴れない選手が多い為、ヘディング、ルーズボールに対しての対応が悪かつたのも事実です。パススピードが遅く、インターセプトされる場面も多くありました。敗戦したもの、育成年代として失敗を恐れず、日頃のトレーニングから取り組んでいる部分を成果として発揮してくれたと思います。また、選手達が全力で取り組んでくれたからこそ、課題も明確となるゲームとなりました。

全国大会に出場していたチームのほとんどが、暑い中でも運動量が落ちることなく、前線からプレスをかけ続け、球際で闘う選手が多いのが印象的でした。また、そういった中でも、基本技術の質は高く、止める・蹴る・運ぶがストレスなくプレーできる選手がほとんどでした。

今回、関西代表として全国大会に出場できましたが、U-12年代の基本ベースがあったこと、そしてU-15年代に関わって下さった指導者、対戦チームの選手がいたからこそ、勝ち上がれた結果だと思っております。ここでの成果と課題を多くの指導者の方々にお伝えさせて頂くことで、滋賀県全体としてのレベルアップにも繋がり、関西を代表するチームが増えていくと思います。そのことが、女子の普及にも繋がっていき、今後の女子サッカーの発展に繋がると思います。

今後共、日々の努力を怠らず、選手・スタッフ一同頑張っていきたいと思います。  
ありがとうございました。



## 第27回バーモントカップ 全日本少年フットサル大会を終えて

ROOTS FUTSAL CLUB 監督 前田 吉弘

ROOTS FUTSAL CLUB創立以来目標にしてきた、バーモントカップ全日本少年フットサル大会滋賀県予選で悲願の初優勝を飾り、本大会出場を決めることが出来ました。

一番は子供たちの頑張りですが、対戦していただいた多くのチーム、関係者、保護者様のご理解ご協力があったからこそと感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

さて、全国大会は8月18日から20日にわたり東京、駒沢オリンピック公園屋内球技場および体育館で行われました。

開会式前日の17日より東京入りし、Fリーグのフウガドールすみだの下部組織フウガドールすみだエッグスおよびバーモントカップ佐賀県代表のソルニーニョFCとトレーニングマッチを行い、翌日の本戦に備えました。

18日開会式は、7月にリニューアルした駒沢オリンピック公園屋内球技場で行われました。目標にしてきた大会、夢に描いた舞台、47都道府県が集まる開会式、勝ち抜いたチーム、選手たちのみが踏み入れることのできるアリーナは最高の舞台でした。

予選初戦は、茨城県代表マルバ茨城FC(今大会3位)であり、予選初戦が最大の山場といろんな事を想定し準備をしてきましたが明らかな準備不足でした。立ち上がりこそ左角に戦えましたが先制され追加点を奪われたところから何もさせてもらえず、全国大会の雰囲気にのまれ、やってきたことを何も発揮できず1対9と大差をつけられての悔しい敗戦となりました。

予選二戦目は、福岡県代表バディ FC(今大会ベスト8)であり、予選リーグ突破を目標にやってただけに負けられない一戦あったので、初戦からの改善を加え布陣を一新し挑みました。前半先制されましたが直ぐに追いつき一進一退の攻防、何度も訪れる決定機を決めきれず、後半残り1分から連続失点、1対5で敗戦し、二戦目を終了した時点で予選リーグ敗退が決りました。全国の洗礼を受けた2試合ではありましたが、点差ほどの力の差を感じず、ただその少しの差を埋めるには並大抵の努力ではいかないと感じました。

19日予選リーグ三戦目は、鳥取県代表アミーゴフットボールクラブであり、やってきたことを何もやりきれずに帰るのか、しっかりやりきり出し切って帰るのか、1勝して帰るのと3敗で帰るのとでは、子供たちも私もチームとしても全くこの先が違ってくる。



試合はセットプレーから先制され、追加点を奪われ前半を0対2で折り返す苦しい展開ではあったが、プレーを楽しみ、やってきたことを表現し、素早い攻守の切り替えで縦横無尽に走り回る選手たち。自分たちのフットサルがしっかり表現でき後半勝ち越し、5対2で全国大会初勝利を飾ることができました。選手、ベンチ、応援、指導者、全員で勝ち取った勝利!非常に大きな1勝となり、選手、指導者にとって大変貴重な経験をさせていただきました。

全国大会に出場するのと、全国大会で勝てるのではチーム造りが大きく違うと痛感する大会となりました。

フットサルの大会で、フットサルチームがサッカーチームに負けるわけにはいかないと、これからもフットサルの普及、育成、また、このジュニア年代でのフットサル活動がこれからのフットボール人生において非常に有意義であることを広めていきたいと考えております。

最後になりましたが、日頃から応援していただいている皆様、また、本大会に向けてご支援いただきましたチームスポンサー様、関係各位の皆様には様々なご支援ご声援賜りました事を厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

## TOPICS 滋賀から世界へ羽ばたく選手 京都サンガ F.C. / U-20日本代表

# 岩崎 悠人

### プロフィール

岩崎 悠人(いわさき ゆうと)、1998年6月11日生れ、彦根市出身、京都サンガF.C.現所属(ポジション:FW)

### サッカー経歴

金城JFC(2005-2010年)→JFAアカデミー福島(2011-2012年)→彦根市立中央中学校(2013年)→京都橘高校(2014-2016年)→2017年京都サンガF.C.所属

### 代表歴

- 日本高校選抜: 第53回デュッセルドルフ国際ユースサッカー大会
- U-17日本代表: 第11回国際ユーストーナメント(U-17)in ミンスク(2015年)、サニックス杯国際ユースサッカー大会(2015年)、国際ユースサッカー in 新潟(2015年)
- U-18日本代表: AFC U-19選手権予選(2015年)、2015年長安フィードカップ(2015年)、Panda Cup(2015年)
- U-19日本代表: バーレーン U-19カップ(2016年)、Panda Cup(2016年)、2016 NTC招待大会(2016年)、AFC U-19選手権 予選(2016年)
- U-20日本代表: ドイツ遠征(2017年)、FIFA U-20 ワールドカップ(2017年)



© KYOTO.P.S.

### Q サッカーをはじめたきっかけを教えて下さい。

A 金城小学校で、小学1年生から始められるスポーツクラブとしてサッカーがあり、始めました。とにかく身体を動かすことが好きで始め、ボールを蹴っている時間がとても楽しく好きでした。その他にも小学3年から5年までは水泳をやっていて、ジュニアオリンピックに出場しました。

### Q 金城JFCに所属していた時の思い出などを教えて下さい。

A サッカーで勝ちたい気持ちや、この所属チームで一番上手くなりたい気持ちは常に持っていました。自分一人で攻撃も守備もやっていた事をおぼえていますし、全体の練習が終わってからも2時間程度、一人でボールを蹴っていました。さらに、全国大会に出場するために金城小学校の近くのサッカースクールにもよく通っていました。

### Q 当時の金城JFC監督であった辻村欣也氏に岩崎選手のお話を聞きました。

“サッカーハ好少年”であり、“ボールがお友達”という言葉がピッタリなサッカー小僧であった。金城JFC時代の主な練習場所は、金城小学校のグラウンドであったが、そのグラウンドにおける岩崎悠人は、常に全力疾走であり、人一倍、練習すること、ボールに触れるなどを楽しんでいて、練習の時に手を抜く姿を見たことがない。また、サッカーのゲームそのものを非常に楽しむ選手であり、相手チームの選手に倒された場合でも、素早く立ち上がってボールを追いかけていたので、相手選手や審判に対してクレームする姿も見たことがない。結果として、常に、自然体で相手チームの選手や審判をリスペクトしていた。

また、彼の存在感については、金城JFCの低学年(1年生及び2年生)の時から、自学年(チーム)におけるお手本的な存在であり、常に自学年におけるテクニカルリーダーであった。金城JFCの3年生以降は、上級生のチームに帯同させていたが、素直な性格と謙虚な態度のお陰で、常に上級生から可愛がられていた。また、金城JFCの4年生の時には、6年生のチームに合流して、全日本少年サッカー滋賀県大会に出場しており、金城JFCの30年の歴史においても、2学年上の公式戦に出場させた選手は岩崎悠人の他に例を見ない。また、金城JFCの最終学年(6年生)では、誰からも信頼されるキャプテンとして、チームの統率を図ってくれたので、非常に存在感のある選手であった。

### Q 金城JFCのときに基本的な技術を教えて頂いたと思いますが、その時の様子を教えて下さい。

A 基本技術はもちろんのこと、それ以上に、指導者の方から人間形成に必要な事を多く学んだことが印象に残っています。特に、何事にもリスペクトする気持ちや審判に対してもリスペクトすることを教えて頂いたことが、今に活かされていると思います。

### Q いつ頃から「プロ選手になろう!」という気持ちになったのか教えて下さい。

A 小学6年生の時、2010年FIFAワールドカップ南アフリカ大会をみて、日本代表がベスト16になつた事が印象的で、あの時に自分自身もいつかは日本代表選手になり、代表のユニフォームを着たい気持ちが強くなりました。それ以来、日本代表選手を目指してサッカーを頑張っています。

### Q サッカーの魅力を教えて下さい。

A 中学3年生の時、第91回全国高校サッカー選手権大会で準優勝した京都橘高校の魅力あるチームや気迫ある選手達の姿(一人一人の気迫)を見て、サッカーは多くの人を感動させる事ができるものを感じました。

### Q 岩崎選手の強みはどの様なところだと思いますか。

A スピードと豊富な運動量を活かしたドリブル突破と、どこからでも狙って撃てるシュート力だと思い

ます。自分としては、「推進力」がキーワードです。また、誰にも負けない粘り強さ、闘争心、貪欲心は、常に、意識して戦っています。

### Q 好きなプレーヤーあるいは目標とするプレーヤーを教えて下さい。

A 高校時代の憧れの選手は、岡崎慎司選手や武藤嘉紀選手でした。現在、特定の目標とするプレーヤーはいませんが、各選手の良いプレーを多く吸収しながら自分自身のものにしたいと考えています。

### Q U-20日本代表チームに入って、心境の変化や技術的な向上について教えて下さい。

A 高校2年生から代表に選出され、Jクラブ所属の他の選手達を見て、技術の差やスピード感の違いを感じました。メンタル的には、代表のユニフォームを着ることで、いくらでも走れるような気がしています。海外チームとの試合の中で、世界のスピード感の違いを思い知らされ、更に、自分自身の気持ちも高まりました。

### Q 直近の目標と、将来的な夢を教えて下さい。

A サンガの勝利に貢献することです。また、次のオリンピックが2020年東京に決まってさらに思いは強くなり、東京五輪は世界を経験する大事な大会であることを感じています。いつかは日本A代表に入り、2022年カタールFIFAワールドカップに日本代表選手として出場したいと思っています。

### Q 海外チームへの想いを教えて下さい。

A ドイツのチームでプレーするのが目標です。文化などは日本人によく合うと言われていますし、日本人のプレースタイルが、ドイツでは好まれていると聞いています。

### Q 滋賀県のサッカー界に期待したいことを教えて下さい。

A 滋賀県では、小学生からトレセン活動に力を入れられていて、技術や身体能力の高い選手が多いと思います。高校年代で陸上選手やサッカー選手達が近県に出て行くことをよく聞きますので、県内のレベルを上げるために、県内にもっと魅力ある学校が存在すれば、と思うこともあります。京都橘高校では、各府県から選手が集まつくる中で、滋賀県や奈良県出身の選手は、全体的に身体能力の高い選手が多かったと思います。

### Q 滋賀県でサッカーをする子どもたちに、サッカーチームとして何かメッセージをお願い致します。

A 自分自身もU-16京都選抜として、2014年長崎国体に出場して3位入賞したことが、日本高校選抜に選ばれるきっかけでした。現在のU-10(小学4年生)の選手達は、2024年滋賀国体に選抜され、活躍することで道が開かれると思います。まずは、2024年滋賀国体U-16選抜選手を目指して頑張ってほしいと思います。最後に、とにかく「サッカーを楽しんでほしい」ということです。

### Q 当時の金城JFC監督から今後の岩崎悠人選手に期待することを聞きました。

現在の所属チームである京都サンガでレギュラー選手として試合に出場し、岩崎悠人の特徴である縦への突破で得点を量産し、京都サンガをJ2からJ1に昇格させる原動力になって欲しい。また、2020年に開催される東京オリンピックでは、サッカーの日本代表メンバーに選出されると共に、50年ぶり(メキシコオリンピック以来)のメダル獲得に貢献してくれることを願っています。将来的には、ブレミアリーグやリーガ・エスパニョーラ等の海外チームとプロ契約して、海外においても活躍されることを期待している。また、岩崎悠人が活躍する姿に憧れて、多くの子供たちがサッカーに興味を持ち、日本におけるサッカーファミリーが増加することを願っている。